

「広かれ、こども食堂の輪！」全国ツアー ヒアリング調査 結果報告

I. 実施概要

- 「広かれ、こども食堂の輪！」全国ツアーの各地域事務局に紹介を依頼し、以下の2箇所から計4組の御紹介をいただいた。

場所	日程	食堂名		活動段階
北海道 旭川市	2017年 10月8日(日)	A	神居・忠和地区 地域食堂	立上げたばかり
鹿児島県 鹿児島市	2017年 10月15日 (日)	B	伊集院こどもふれ愛食堂	立上げ準備中
		C	みま～もコミュニティ食堂	立上げたばかり
		D	なかす子ども食堂 Mayu カフェ	立上げたばかり
長崎県 長崎市	2017年 12月3日(日)	E	特定非営利活動法人おんぷにだっこ	立上げ準備中
		F	子ども食堂 ワクワクくらぶ	立上げたばかり

II. 立上げ期の課題と連携内容

- ヒアリングの結果(「Ⅲ. 詳細報告」参照)を基に、立上げ期の子供食堂が有する課題と、連携内容について以下の通り取りまとめた。

課題	連携先・連携内容
地域の理解	<p>A 地元の子育て協議会等に積極的に顔を出す、地域住民に直接訪問する等、子供食堂について説明して理解を広げた。</p> <p>B 子供食堂を立上げたいと、地元の自治会、学校に相談したところ「この地域に貧困の子供はいない」と言われ、理解を得られなかった。一方で、子供会の役員や公民館の職員の方々には、理解していただけた。</p> <p>F 突然、子供食堂をやりたいといっても実績がなければ、地域住民の理解も得られにくい。そこで、まずは今年の8月に4回の学習支援を計画した。そのうちの1回で子供食堂を開始することで、実績を作った。</p>
ノウハウ・情報収集	<p>A 地域の子育て支援協議会等の会議に積極的に参加して情報収集を行った。</p> <p>A 旭川市の子供食堂ネットワークから衛生管理等の様々な情報提供を受けている。</p> <p>E 1度も開催していない中で、どの程度参加してもらえるかわからない。どの程度を見込むかで食材の量、スタッフ数等も変わってくるが、その見込みを立てるのが困難である。</p>
スタッフ	<p>A 地域包括支援センターからボランティア団体につないでもらった。</p> <p>B 市議会議員を通じて教員OBに声をかけている。</p>

	E 協力を打診しようと考えている方もたくさんいるが、どこまで声をかけるべきなのか判断がつかない。最初から広く声をかけて協力依頼をする、最初は小さく始めて実施状況に合わせて声かけの範囲を広げる、あるいは自主的に参加したいという人が出てくるのを待つべきなのか等、どうすべきか悩ましい。
会場	A スタッフとして活動するボランティア団体が持つ空き家情報を活用した。 B 会場使用費ができるだけ安くなるよう、公共施設（地区公民館）を利用させてもらえるようお願いした。 C デイサービスの高齢者の孤食解消のためのイベントに子供も参加している形であるため、会場はデイサービスを活用している。
資金	A 自治体の補助金を活用している他、地域住民からの寄付もある。 F 会場は無料で、食材も支援を受けているので特段問題はない。しかし、始めてみると、案内チラシの印刷、布巾等の備品の購入、行事保険料等、付随費用が相応にあることが分かった。
食材	A 地域包括支援センターを通じて家庭菜園を持つ高齢者から野菜を提供していただいている。 C 食材提供は受けているが、まだマッチングが上手くいっていない。余った食材をストックする案内所のような場があるとよい。 D 野菜の提供は多くいただいているが、肉や魚等の主菜になる食材や、持ち帰り用に配っているお菓子の寄付があると良い。 F 初回はボランティアや地域からの寄付でほとんどの食材を確保した。足りないものは、メンバー7名で1,000円ずつ出し合って調達した。初回開催の実績から、フードバンク協和から食材の調達を受けられるようになる、ララコープから月2,000円の補助をいただけるようになる等、支援や連携のネットワークが広がっている。
広報	A 学校、児童センター、地域包括支援センターを通じて声かけやチラシ配布を実施。 D 子供食堂に熱心な市職員が異動されたことで、連携が上手くいかなくなりつつある。 F 公民館長の協力により地域に案内をしてもらっているが、それだけではなかなか人は集まらないこともある。特に気になる地域には、メンバーやボランティアが個別にチラシを配布している。
衛生管理	A 使い捨ての備品（手袋等）の費用が嵩み、支援がほしい。 E 衛生面でどのような手続が必要なのかわからない。
その他	D 大人の参加者が増え、子供が参加しにくい雰囲気になってしまっている。

Ⅲ. 詳細報告

A 旭川市 神居・忠和地区 地域食堂

日時：2017年10月8日（日）

会場：大雪クリスタルホール（「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin 旭川 会場）

子供食堂の活動段階：始めたばかり（これまでの開催回数：2回）

ポイント

- 地域包括支援センターとつながることで、仲間作り（ハートフレンドの会の紹介）や費用・食材の確保（地域の高齢者への寄付呼びかけ）という課題を解決した。
- 地域の連絡協議会（旭川おとな食堂）や既存の子供食堂運営者（ワーカーズコープ）、から子供食堂の運営や衛生管理に関するノウハウを獲得している。
- フードバンク（ワーカーズコープ）と連携して食材を確保している。

■子供食堂を始めようと考えたきっかけ

- 代表が児童厚生員として勤務する児童センターで利用者の子供達と接する中で、給食しか食べていない子供がいることに気づいたことをきっかけに、家庭で大人と十分にコミュニケーションが取れていない子供への支援をしたいと考え、所属する特定NPO法人ワーカーズコープが他地域で運営していた子供食堂を、神居地区でも開設しようと思いを立ちました。

■子供食堂を立上げるまでに生じた課題

【スタッフと会場の確保】

- 子供食堂を作るにあたり、まず会場探しと仲間集めが課題となりました。
- そこで、神居子育て協議会や神居まちづくり協議会といった会議体に積極的に参加し、情報収集や声かけを行いました。その中で、地域包括支援センターのセンター長から紹介していただいたボランティア団体（ハートフレンドの会）とつながり、スタッフとして協力していただけることになりました。
- ハートフレンドの会では、地域活動の拠点とするために空き家マップを作成していたものの、具体的な活動に結びついていませんでした。そこで、諸澤氏から、旭川市が平成29年度から開始した助成金を紹介するとともに、子供から高齢者まで地域住民が誰でも集まれる「地域食堂」のコンセプトを提案した結果、ハートフレンドの会と協力して子供食堂を立上げることが決まりました。

【費用】

- 運営費や食材購入費については、旭川市の助成金を活用しているほか、ワーカーズコープの運営するフードバンクや、地域の人に寄付で確保しています。

- 地域包括支援センターから、家庭菜園で野菜を育てている高齢者が多くいるため、寄付を呼びかけてはどうかと提案され、実践したところ、多くの高齢者から野菜の寄付がありました。現金を寄付してくれる方もおり、大変助かっています。
- また、大人には参加費を設定することにしましたが、無理なく毎回参加できるようにするため、金額設定に悩みました。地域の事情に詳しいハートフレンドの会のボランティアと話し合った結果、1食200円に決めました。

【衛生管理】

- 衛生管理面のノウハウについては、旭川の子供食堂の連絡協議会「旭川おとな食堂」の講義、アドバイスを受けています。一度でも問題が起きると、旭川の子供食堂全体に波及してしまうと考え、衛生管理には非常に気を使っています。そのため、必要な消耗品（ラップ、ビニール手袋、使い捨てのキッチンペーパー等）が多く、経費が嵩んでいることが課題です。

【広報】

- 子供食堂の広報を行うにあたり、まず神居児童センターの存在が地域に浸透していないという問題がありました。そこで、自身が地域の協議会（街づくり協議会、子育て協議会等）に積極的に参加する、あるいは地域のお宅に訪問して児童センターや子供食堂の活動を紹介することで、少しずつ認知度を上げていきました。
- 子供については児童センターに来ている子供に呼びかける、学校にポスターを貼らせてもらうなどして募集しています。児童センターの子供には、「友達も連れておいで」と話し、幅広い子供が参加するよう取り組んでいます。
- 大人に対しては、地域包括支援センターを通じて町内会の回覧板にて、参加と寄付の両方を呼びかけています。
- 過去2回は、大人40食程度、子供10食程度でした。当初見込みは30食であり、予想を超える反響が得られています。

■今後の方針・課題

- 衛生管理には気を使いたいが、食材とは異なり寄付で賄えるものではないため、経費負担としては想定外に重いものとなっています。継続的な運営のため、こうした備品購入費の確保が課題となっています。

B 伊集院こどもふれ愛食堂

日時：2017年10月15日（日）

会場：ホテルウェルビューかごしま（「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin 鹿児島 会場）

子供食堂の活動段階： 立上げ準備中

ポイント

- ・子供の貧困問題が地域にあるという事実について、理解が得られないことがあった。
- ・子供食堂に子育て支援、教育支援といった多様な機能を持たせ、多世代が集う場とした。

■子供食堂を立上げたきっかけ

- ・伊集院こどもふれ愛食堂代表は、自らの貧しい子供時代の経験から、子供の成長のためには衣食住の確保と、地域とのつながりが重要であると考えていました。
- ・以前より、宮城や熊本等の災害救助隊に参加していましたが、次第に地元で根ざした活動を継続的にやりたいと考えるようになりました。
- ・県主催の子供の貧困の現実と支援についてのセミナーに参加して危機感を覚えたことをきっかけに、子供食堂に関心を持ちました。
- ・友人の子供食堂のオープンを見学して、多くの人達が関わりながら食事を提供し、子供達が喜ぶ姿を見たこと、そして、高校時代の友人に応援してもらったことで、自身でも子供食堂を立ち上げることを決意しました。

■子供食堂の立上げ準備の状況と課題

【運営資金の確保】

- ・まずは、自己資金で子供食堂の準備を進めました。
- ・運営資金の支援については、専用の振込口座を作って各所から寄付を集める他、会場使用費等についてはできるだけ安くなるよう、公共施設（地区公民館）を利用させてもらえるようお願いします。
- ・寄付金用の口座のある郵便局で、振込用紙を格安で作成することができました。

【地域との連携】

- ・市社会福祉協議会内のボランティア協会の活動を通して、子供食堂への理解と賛同者を募りました。
- ・子供食堂を立上げたいと、地元の自治会、学校に相談したところ「この地域に貧困の子供はいない」と言われ、理解を得られませんでした。一方で、子供会の役員や公民館の職員の方々には、御理解を頂き、手助けをいただくことができました。

■ 今後の方針

- 立上げ後の食材確保のため、フードバンクと関係構築を進める他、地元の農家や企業・個人の方々と支援組織を構築したいと考えています。
- 子供食堂に子育て支援機能を持たせたいと考え、市議会議員を通じて、教職員の OB に声をかけています。子供食堂の中で、薩摩藩の郷中教育（小学生を中学生が教え、中学生を高校生が教える等）の再現をしたいと考えています。また、将来的には高齢者、自宅介護家族、赤ちゃんを育てる家族等が相互に利用できるコミュニケーションの場を提供したいと考えています。
- 会場となる公民館は学校の近くなので、将来的には児童向けに朝食の提供も実施したいと考えています。

C みま〜もコミュニティ食堂

日時：2017年10月15日（日）

会場：ホテルウェルビューかごしま（「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin 鹿児島 会場）

子供食堂の活動段階：立上げたばかり

ポイント

- みま〜もコミュニティ食堂は独居高齢者の「孤食」解消のために始めた取組だが、多世代に向けて開放しているため、結果的に子供食堂の側面を持っている。
- 食材の寄付はあるが、マッチングがまだうまくいっていない。

■子供食堂を立上げるまでの経緯

- みま〜もコミュニティ食堂は、厳密には「子供食堂」ではなく、医療法人仁慈会の子会社である健口株式会社によるデイサービスの一環として、独居高齢者の「孤食」を解消するべく、不定期での「共食」イベントを実施しているものです。このイベントを、高齢者だけではなく多世代に開放したことで、結果的に子供食堂としての側面を持つようになりました。
- イベントの開催時には、平均して20人が参加します。そのうち、子供は3分の1から4分の1程度です。一緒におやつを作って食べるといったイベントも開催しています。

■子供食堂を立上げるまでに生じた課題

【運営費用】

- 一般の方は有料ですが、高齢者は参加費無料のため、運営費用の確保が大きな課題となっています。

【ノウハウ】

- 経験がない中での立上げで、分からないことも多いため、子供食堂の運営実績がある方のノウハウやアイデアを御提供いただける機会があるとよいと思います。

【広報】

- まだ取組を始めたばかりで、地域の方への認知はこれからと感じています。現在はFacebook等で広報を行っています。

■今後の方針・課題

- 食材を寄付していただくこともありますが、必要な食材とのマッチングがうまくいっていないと感じています。農家の方等、寄付をして下さる方が、寄付したい食材をストックする案内所のような場があると良いと感じています。

- 「広がれ、子ども食堂の輪！」全国ツアー等のイベントに参加することで、情報収集や他の子供食堂関係者とのネットワークの構築を進めていきたいと考えています。

D なかす子ども食堂 Mayu カフェ

日時：2017年10月15日（日）

会場：ホテルウェルビューかごしま

（「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin 鹿児島 会場）

子供食堂の活動段階： 定期的に開催

ポイント

- 野菜以外にも、肉や魚といった主菜になる食材や、お菓子等の寄付も必要。
- 資金的支援だけでなく、広報等のサポートをしてくれるボランティアがいると良いと感じる。

■子供食堂を上げたきっかけ

- もともと有機野菜の栽培を行っており、余ってしまう野菜の有効活用のために子供食堂を始めました。曾祖母が存命の際、食べるに困った人に食事を提供していた姿を見ていたため、若い人を対象とした食堂を作りたいと考えていました。
- 自身が天文館周辺で屋台販売を行っていた際、子供との会話から、ご飯を食べられていない子供がたくさんいることを知りました。

■子供食堂の経緯・概要

- 基本的に代表 1 名で運営していますが、アルバイトとして 2~3 名のスタッフが参加することもあります。
- 小学生までの子供は参加費無料、中学生以上は 300 円としています。
- 席数は 12 席で、予約制としています。40 名/日程度の子供の利用があります。
- 自宅での開催だけでなく、移動販売やイベントへの出店、展示場での食事の無料配布等も行っています。

■子供食堂の立上げ・運営に係る課題

【食材の確保】

- ボランティアの方からの野菜の寄付や、子供食堂のネットワークから御提供いただいた食材を活用しています。運営費は厳しい状況で、今後も寄付の呼びかけをしていきたいと考えています。
- 野菜は寄付していただけることが多い一方で、主菜となる肉や魚の寄付は少ない状況です。また、子供が家で食べられるようにと渡している菓子類に経費がかかっているため、寄付があるとありがたいと感じます。

【利用者】

- 最近大人の参加者が増えており、子供が入りにくい雰囲気になっていることが課題となっています。生活が困窮している高齢者の参加も増えています。

【会場】

- 当初は公民館で開催する話もありましたが、調理場を確保する必要があったため利用できず、自宅の1階を改装することになりました。

【広報】

- 広報にあたっては、チラシを掲示する他、市のHPの子供食堂に関するページに情報を掲載していただいています。
- 子供食堂に熱心な市の担当者が異動されたことで、市との連携が上手くいかなくなりつつあります。また、学校等と連携するためには知名度を上げる必要があると感じています。
- 広報には手間がかかるため、ポスター作りを手伝っていただけるボランティアがいるとよいと感じています。

■今後の方針

- 子供にお茶の煎れ方を教えるといったイベントを開催してきましたが、これからもこうしたイベントを発信していきたいと考えています。子供食堂が定着してきたら、芋ほりや地引網等の農林漁業体験にも取り組みたいと考えています。

E 特定非営利活動法人おんぶにだっこ

日時：2017年12月3日（日）

会場：長崎大学文教スカイホール（「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin 長崎会場）

子供食堂の活動段階：立上げ準備中

ポイント

- ・自治体や農業関係者、道の駅等、地域の関係者と協議を進めている。

■子供食堂を始めようと考えたきっかけ

- ・特定非営利活動法人おんぶにだっこは、学童保育と子育て支援を行う団体です。
- ・おんぶにだっこの所在地域は、ある程度顔の見える関係はあるものの、家庭の事情までは分かりません。共働き世帯も多いため、保護者に勉強をみてもらう、一緒にご飯を食べる等の時間が少ない家庭の子供もいると考えられます。
- ・そうした状況の中で、おんぶにだっこの代表が学習支援や子供食堂を通じて子供の居場所づくりをしたいという考えを持ち、知人とともに子供食堂の立上げを進めることにしました。

■子供食堂の立上げ準備の状況と課題

【食材の確保】

- ・食材はおんぶにだっこの会員関係者からの支援のほか、道の駅にも協力依頼をしているところです。地元で農業関係者等、生産者がたくさんいるので、必要に応じて個別に依頼すれば協力していただけることが期待され、食材の確保はできるのではないかと考えています。

【スタッフ】

- ・おんぶにだっこの会員（20名程度）の中には、教育や子育て支援に関する活動をしている方が多くいるため、まずは会員にスタッフとしての参加を呼びかけています。他にも協力がいただけそうな個人や団体に声をかけて、実行委員会を組成する予定です。

【ノウハウ】

- ・1度も開催していない中で、参加者がどの程度集まるのか見通しが立たず、食材の量、スタッフの数等、計画を立てることが難しいと感じています。
- ・協力を打診しようと考えている方もたくさんいますが、どこまで声をかけるべきなのか判断がつかず。最初から広く声をかけて協力依頼をする、最初は小さく始めて実施状況に合わせて声かけの範囲を広げる、あるいは自主的に参加したいという人が出てくるのを待つべきなのか等、どうすべきか悩ましいと感じています。

- 開催時間は昼・夜どちらがよいか、衛生面でどのような手続が必要かなども分かりません。参加者には名前を書いてもらった方がいいのか、参加人数だけ把握すればよいかも検討しているところです。

【広報】

- 現在協議中ですが、自治体の協力を得られたら、教育長、教育委員会を通じて、地元の小中学校に案内をしてもらえるよう依頼する予定です。

【会場】

- 開催場所は町有施設を無料で貸してもらえよう、自治体と協議しているところです。

■今後の方針・課題

- 全てを完全に準備するというよりは、「できることからやっていく」という姿勢で立上げ、徐々に活動を充実させていきたいと考えています。
- 「広がり、子ども食堂の輪！」全国ツアーに参加して情報収集し、関係者全員で共有した上で、12月中には実行委員会を立上げる予定です。
- おんぶにだっこの会員を通じて、子供食堂にスタッフとして参加するボランティアを募る等、地域を巻き込んだ活動を目指したいと考えています。

F 子ども食堂 ワクワクくらぶ

日時：2017年12月3日（日）

会場：長崎大学文教スカイホール（「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin 長崎会場）

子供食堂の活動段階：立上げたばかり（2017年8月開始、これまでの開催回数：2回）

ポイント

- ・最初に開催実績を作ってから、関係者の理解を得たり、支援のネットワークを広げている。
- ・代表をはじめメンバーが有するネットワークを有効に活用して、学校やボランティアとの関係を築いている。
- ・フードバンクと連携して食材を確保している。

■子供食堂を始めようと考えたきっかけ

- ・代表がかねてから民生委員やボランティア活動を行っており、その中で地域にご飯を食べていない子供がいる、夏休み明けに痩せて通学してくる子供がいるという話を聞くことができました。
- ・こうした子供のためにできることはないかと考えたことをきっかけに、民生委員やボランティア活動で培ったネットワークを生かしてPTA 会長や民生委員、婦人部長といった協力者を募り、子供食堂を立ち上げました。

■子供食堂を立ち上げるまでに生じた課題（立ち上げ後も含む）

【資金】

- ・初回は米や野菜、カレー粉等のほとんどの食材を寄付で確保することができました。足りない食材や備品については、立ち上げメンバー7名で1,000円ずつ出し合って調達しました。
- ・佐世保市の子供食堂ネットワークから助言を受けながら初回の子供食堂を開催し、その実績から、フードバンク協和から食材の調達を受けられるようになる、ララコープから月2,000円の補助をいただけるようになる等、支援や連携のネットワークが広がっています。
- ・食材は寄付でほとんど賄っていますが、案内チラシの印刷費、布巾等の備品の購入費、行事保険料等の付随費用が負担となっています。

【地域との連携】

- ・子供食堂をやりたくとも、実績がなければ地域住民の理解は得られにくいと考え、まずは平成29年8月に4回の学習支援を計画しました。そのうちの1回で子供食堂を開催することで、実績を作りました。

- 立上げ準備中は代表の個人的なネットワークで協力者を募っていましたが、民生委員の団体に正式に協力依頼することで、組織的な協力を得られるようになりました。
- 自治体の協力を得て、公民館を無料で借りている他、お知らせを公民館においてもらったり、回覧を回していただいています。また、ボランティアセンターとのネットワークを通じて、当日運営のスタッフを募集しました。

【広報】

- 公民館長の協力により地域に案内をしていただいています、それだけで参加者が集まらないこともあります。特に気になる地域には、メンバーやボランティアが個別にチラシを配布しています。
- 初回開催で実績を作ったことにより教育委員会の後援を得ることができ、近隣の小中学校にチラシを置かせていただいています。また、公民館の中にある児童センターを利用する子供に参加を呼びかけたこともあります。

■今後の方針・課題

- 子供食堂といっても、貧困家庭や課題を抱えた子供だけでなく、たくさんの子供に来てほしいという思いがあります。子供の居場所であるとともに、たくさんの子供が来て楽しめる場所となることの両方を目指したいと考えています。
- 地域の大人や、子供の保護者とつながることで、活動の幅を広げたいと思います。
- メンバーはそれぞれにボランティア活動や民生委員、PTA 活動等の活動や仕事のため多忙です。無理せず、運営側が楽しみながら継続していきたいと思います。